

足立区議会議員 鹿 浜 昭 様

足立区議会議員 13 番 くじらい 実 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいのので、会議規則第 59 条第 2 項の規定により質問通告書を提出します。

記

行 政 区 分	質 問 の 要 旨
1 政策経営行政	I 将来を見据えた希望あるまちづくりを 地域の皆さんもこれから竹ノ塚駅、そして竹の塚エリアがどう変わっていくのか、期待を持って注視している。一朝一夕にはできないまちづくりではあるが、今までご尽力頂いた方々の想いをしっかりと次世代に引き継いでいくことが大切であると考えている。 1 竹の塚エリアデザインについて ①現在、7つのエリアのうち、5つのエリアデザイン計画が進行中である。すでに、エリアデザイン計画を策定した、六町、花畑、江北、北綾瀬エリアでは、計画に基づきまちづくりが進んでいる。エリアデザイン計画は、概ね 30 年先を見据えているとのことであるが、その間には、社会情勢も地域の状況も刻々と変化していくと考える。今、策定したエリアデザイン計画も時間の経過とともに修正が必要になるのではないかと、区の考えを伺う。 ②竹の塚エリアデザイン計画は、令和 2 年度末をめざして策定中である。江北エリアは「健康」、北綾瀬ゾーンは「北綾瀬駅周辺の活性化」、西新井・梅島エリアは「豊かで快適な安全・安心なまち」をテーマにエリアデザイン計画を策定してきたが、貴重な歴史や文化を抱える竹の塚エリアはどのような視点で計画を策定しようとしているのか伺う。 ③これまで、竹の塚のまちづくりに関しては、さまざまな場面で地域の声を聴いてきた。エリアデザイン計画策定にあたっては、しっかりと区民の意見を聴いて欲しいと考えるがどうか伺う。
2 都市建設行政	2 竹ノ塚駅鉄道高架化について ①想定外の埋設物である鋼矢板の撤去に伴い、鉄道高架化の工事が遅れることになったが、現在の鋼矢板の撤去状況を伺う。
	2 月 14 日 午前・午後 10 時 00 分受付 質問時間 20 分

	13 番 くじらい 実
行政区分	質問の要旨
	②この春には、伊勢崎線第 37 号踏切の上に高架橋の桁が架かり、9 月には上り急行線を高架化すると聞いている。その後も、区民の長年の悲願である踏切解消を目指して工事を進めているところであるが、今後のスケジュールや工事の進捗が計画通り進んでいるのか伺う。 3 竹ノ塚駅周辺のまちづくりについて ①竹ノ塚駅西口には伊興遺跡公園、また伊興寺町と歴史・文化を抱えるまちを有している。先日の東武鉄道が行った東武健康ハイキングにおいても 2,093 人が参加するなど、イベントによっては多くの乗降客を見込むことができる。このように、竹の塚に住み続けたい人だけでなく、竹の塚を訪れたい人を増やす視点も必要であると考ええる。足立区の北の玄関口として、例えば高架下の活用や商業施設、ホテルなど、まちのにぎわいの創出が必要と考えるが、今後、駅周辺のまちづくりをどのように進めていくのか伺う。 ②竹ノ塚駅西口駅前には、これまであった建物が取り壊されるなど、区画街路第 14 号線の整備に向けての工事の始まりを実感できる。現在の、進捗状況と来年度以降の整備スケジュールを伺う。 4 バリアフリー整備について ①昨年、交通網・都市基盤整備調査特別委員会にて新しい竹ノ塚駅について示されたが、我が党がかねてから要望してきた、20 人乗りの大型エレベーターの設置をはじめ、多機能トイレの設置など、全ての利用者に配慮された計画になっている。また、平成 28 年に策定された「足立区バリアフリー推進計画」において、竹の塚地区は、将来バリアフリー重点整備地区になる可能性の高い特定地域に位置づけられている。今後、区は竹ノ塚駅周辺においてどのようにバリアフリーを進めていくのか伺う。 ②また、現在の竹ノ塚駅東口のエスコートゾーンについてどう対応していくのか伺う。 5 無電柱化政策について ①昨年の建設委員会の行政視察において、兵庫県芦屋市の無電柱化政策について調査をしてきた。視察当時、市町村の中ではトップの無電柱化率で、達成率は 14%であり、関係事業者との合意形成が重要と聞いた。 足立区では、無電柱化率はどこまで進んでいるのか。また、無電

13 番 くじらい 実	
行政区分	質問の要旨
3 危機管理行政	柱化は災害時の電柱の倒壊はもとより、まちの景観にも大きく影響する政策である。区の取り組むビューティフル・ウィンドウズ運動にも大きくかかわりを持つと思うが、区の無電柱化政策について今後の方針を伺う。 ②また、今後の竹ノ塚駅周辺のまちづくりの中で、具体的に整備する予定の路線はどこか伺う。 6 駐輪場対策について ①現在、竹ノ塚駅周辺は自転車駐車場の利用者が数多くいる。その中でも、現在都市計画道路となっている補助第 261 号線上にある竹の塚東 A 棟自転車駐車場・竹の塚東 B 棟自転車駐車場は駅に近く人気もあり、それぞれ 1915 台・1267 台収容でありながら満車に近い状況であると聞いている。今後、高架化に伴う道路整備をしていく中で、民営の駐輪場を圧迫しないように台数に配慮した上、どのように活用していく予定なのか。計画を伺う。 7 自転車盗対策について ①令和元年の区の刑法犯認知件数が戦後最少の 4,764 件となり、過去最高であった平成 13 年の 16,843 件から比べると大幅に減少し、区のイメージアップを図れるとともに、区の取り組みを高く評価するところである。その中でも自転車の窃盗が多くを占めていたが、施錠の徹底などの対策を関係者一丸となって進めることも、刑法犯認知件数が大幅に下がった要因の一つと考えられる。 ただ、竹ノ塚駅周辺、特に竹の塚六丁目において、昨年 11 月までの累計の足立区内自転車盗については 30 件以上と、他の地域よりも比較的多く自転車盗が起きており、今後の竹ノ塚駅周辺の安心安全のためにも早急な自転車盗難対策が重要だと考えるが、今後の取り組みについて伺う。 8 災害に強いまちづくりについて ①近年の水害や身近に迫る首都直下型地震など、今までの常識では測れない程の自然災害が猛威を振るようになってきた。昨年は台風 19 号により、荒川や中川が氾濫危険水位を上回り、各地区で避難所が開設された。 荒川や中川などの大規模河川ではないが、足立区の北部地域も、毛長川や新芝川を抱え、また竹ノ塚駅西口は昔の地名であった「伊興町前沼」、また当時付近一帯が横沼とよばれていたことからつい

	13 番 くじらい 実
行政区分	質問の要旨
	た「横沼寺」など、歴史から見ても地盤が脆弱と思われる地域を含み、地域の住民も水害に対する危機感が高まっている。こうした状況を踏まえ、今後の水害に備えるために、区北部の竹の塚エリア、竹ノ塚駅周辺地区の避難所の運営にどう取り組んでいくのか伺う。 Ⅱ 誰もがスポーツ・運動のできる環境づくりを 足立区内のスポーツ環境を整備し、足立区で生まれ育った子供たちの中から優秀な選手が育つことが将来における足立区の財産になる。今回の東京 2020 オリンピック・パラリンピックによって、子ども達が夢と希望を持てる契機としたい。 7 月 19 日に行われる聖火リレーにおいては、日光街道の竹の塚交差点をスタートし、千住の足立市場までを南下するコースが発表された。そして、足立市場にてセレブレーションが開催、また荒川河川敷においてイベントを予定していると聞いているが足立区民が一丸となって、大いに盛り上がることを期待している。 4 産業経済行政 1 ウェルカム Tokyo イベントについて ①特に海外からの観光客が増加すると見込まれているが、区の魅力を発信する大きなチャンスでもある。ウェルカム Tokyo イベントにて区の企画が採用されたとの報告があった。レガシー事業としても期待するところであるが、観光事業として具体的な取り組みはどうか伺う。 5 地域のちから推進行政 2 パラスポーツについて ①あだちの 2 月は障がい者スポーツ推進月間ということで、先日総合スポーツセンターで開催された「第 7 回 障がい者スポーツフェスティバル」を見学した。パラリンピックの開催を控え、障がいのある、なしに関わらず来場者も例年以上に多かったと聞いている。ぜひ今後もパラスポーツの推進に力を入れて頂きたいと思うが、今回のスポーツフェスティバルでこれだけの集客ができた要因を区ではどう分析しているのか伺う。 ②オランダ連携プロジェクトの中で、足立区版のスポーツ・サービス・ポイント「あだちスポーツコンシェルジュ」を新規開設することになっている。江戸川区で開設したスポーツ・サービス・ポイン

	13 番 くじらい 実
行政区分	質問の要旨
	トは障がい者の方が自ら相談に来るケースが少ないと聞いている。区では障がい者の方への積極的なアウトリーチも必要だと思うが、区の考えを伺う。 3 スペシャルクライフコートの整備について 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシー事業として、クライフ財団が認定した日本初のスペシャルクライフコートを総合スポーツセンター内に整備することが決定したと発表された。使用開始時期がパラリンピック開会前の 8 月中旬ということで、障がい者が使える施設が整備されることは喜ばしいが、その後どのように運営をしていくのか、また障がい者でも運営に関わることができる環境づくりが大切であると考えている。 ①日本で初めてスペシャルクライフコートを設置し、子どもから大人まで、障がいの有無に関わらず使用できると聞いている。その際、コートまでの導線や障がい者対応のトイレなど、総合スポーツセンターのバリアフリー整備も必要と考えるが、区の計画はどうなっているのか伺う。 ②8 月中旬の使用開始までのコートの整備スケジュールはどうなっているのか。整備期間中の総合スポーツセンターの使用に影響があるのか伺う。 ③オリンピック開会前には聖火リレーの日程に合わせて足立市場でのセレブレーションや荒川河川敷でのイベントが予定されているが、パラリンピック開会前でもあり、スペシャルクライフコート完成時にイベントを開催するのか伺う。 ④スペシャルクライフコート完成後は、障がい者を優先に使用させるべきだと思うが、利用料金が発生するのか。また、あだちスポーツコンシェルジュとの連携を図るべきだと思われるが、区の今後の取り組みを伺う。 6 都市建設行政 4 パークイノベーション推進計画について スペシャルクライフコートの設置により、障がい者の方も運動が出来る環境が進みつつある。そして、子ども達が運動・また体を動かす環境の確保のためにも公園の整備も重要であると考えている。 2 月 7 日に放映された NHK テレビ番組「ネタどり」でも取り上げられたが、公園の禁止事項が多く、以前は利用者が多かった公園も子どもが少なく閑散としてしまっている。その対策としての先進事例で、区がパークイノベーション推進計画を策定し、解決に動いている

	13 番 くじらい 実
行政区分	質問の要旨
	との内容が放送された。足立区の公園でも、テレビの放送された通り改善されつつあり大いに期待しているが、未だに禁止看板も多く設置されていると見受けられる。 ①パークイノベーション推進計画を策定後に様々な取り組みを行っているが、具体的にどのような取り組みを行ってきたか伺う。 ②より良い計画を進めるために、毎年の PDCA サイクルをしっかりと回していくことや、竹ノ塚駅周辺・青井駅周辺・舎人駅周辺の各モデル地区での検証も重要だと考える。まず各モデル地区での検証結果はどうであったのか伺う。 ③3つのモデル地区での事業展開後、全区でパークイノベーション推進計画に基づき公園改修を実施していくと考えるが、どのような基準で展開していくのか伺う。 ④かつては公園のトイレは3Kと言われ、周辺の住民から敬遠されていただけではなく治安の悪化も招いていた。そこで区は「あだちトイレアートプロジェクト」の取り組みとして、潤徳女子高等学校の美術コースの生徒さんがデザインと塗装をした千住中居町公園のトイレをはじめとした「アートなトイレ」、そして公募で選ばれたデザインで生まれ変わるたこ公園の塗装など、公園のイメージアップを図っている。住民の方が行きたくなるような安全・安心な公園に向けて今後どのように取り組んでいくのか、区の考えを伺う。 ⑤キャッチボールやサッカーのパス回しなどは、運動するだけでなく、親子のコミュニケーションや友人同士の絆を深めることにも寄与する。周囲の安全に注意するのはもちろんだが、その地域において地域ルールを決めて公園を活用してもらうことも大切だと思うが区の考えを伺う。